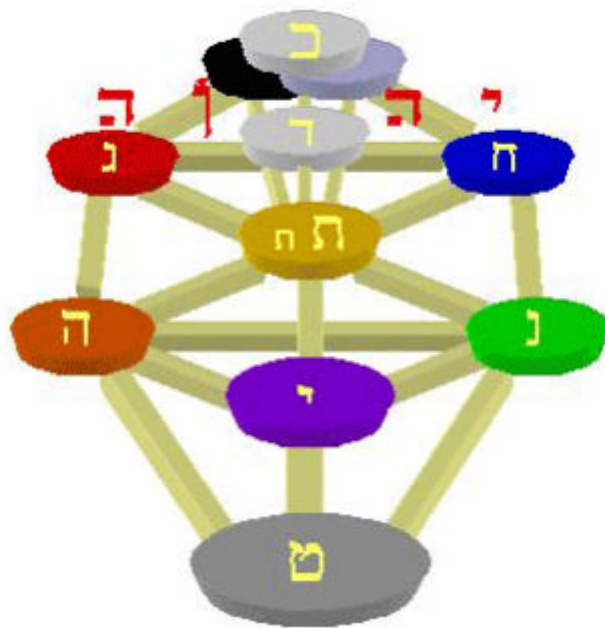


春分儀式

I :: O :: S :: 儀式魔術文書 VE03A



THE OFFICIAL ORGAN
OF
I :: O :: S ::

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I :: O :: S ::

THE SPRING EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I :: O :: S :: ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春分点の前後48時間以内に実施すること。

儀式内容は、メルカバ幻視を主軸に「諸天界への上昇」(rinsing in the planes)を実施する。

1 メルカバ

メルカバ(מרכבה)とは、ヘブル語で「戦車」を意味する言葉である。現代イスラエルの主力戦車(MBT)もメルカバと言うが、その本来の姿は、アッシリアの太陽の戦車であり、数頭の馬に引かれる二輪馬車である。

聖書には数多くの戦車の幻視が登場する。

「20の千倍の千倍の神の戦車が、主とともにシナイから聖所に降りられた。」(『詩篇68:18』)

ここでは「神の戦車」(מִכְשָׁלָא מַלְאָכִים)という表現が用いられる。

これは『エゼキエル書』にある火のなかで青銅(ハシュマル)のように輝く四つの(四面の)生き物(ハイヨト)と同じものとされ、後世の神秘家たちはメルカバと名付けた。



メルカバ幻視(ツェフィヤート・ハ・メルカバ)そのものには、二つの類型がある。

ひとつは、神秘家が天宮の最奥に上昇(下降)するための乗物としてのメルカバである。無数のメルカバ群から、神秘家に対応する1台のメルカバが出現する。それは「2万2千のメルカバが神とともにシナイ、レヴィ人の幕屋に下降した。」(『エゼキエルの幻視』)⁽¹⁾とある輝く乗物である。

一方、第7宮殿に伺候するとき、戦車の玉座(מִכְשָׁלָא מַלְאָכִים Throne-Chariot)たるメルカバに座す主に拝謁する。これは「審判及び栄光の玉座」としての「主のメルカバ」である。

このメルカバ思想(メルカバ神秘主義)または、ヘハロート神秘主義は、紀元1世紀から5世紀にかけて成立し、後世に重大な影響力を及ぼした示唆に富む大系である。七つのヘハロートをめぐる上昇と下降の実践大系は、ほぼ同時期にイアンブリコスが大系化したテウルギアにおける霊魂の上昇(アナゴーゲー)と下降(カタゴーゲー)の概念と同じく、人間のもつ有限性の束縛をいかに脱して、流出の源泉(隠れたもの、ヌース)に辿り着こうとする試みである。

ユダヤ人はこの作業を天界への「上昇」

(מַעֲלָא אֲרִיָּא)と、また逆説的に「下降」(מַדְּלָא יְהִיָּדָא)とも呼んだ。

ショーレムは初期の研究において、メルカバ文献は古い時代には「メルカバへの上昇」という用語を使っていたが、『大ヘハロート』以降は「メルカバへの下降」になったと言及している。⁽²⁾



また、ヘラスの大系(マギカ・ヒエラ)が、一気に源泉に上昇するのに対し、霊的階梯を設け、天使たちの承認を獲得しながら、主に近づくメルカバ神秘主義の手法は、その実践技術の確かさと幻視の鮮明さが特徴であった。

メルカバ幻視の魔術的技法の原型はペルシャや、アラブの神秘学的伝統に帰す学者もいるが、その中心は『ギリシャ・エジプト魔術パピルス』の上昇技法にある。代表的なものは「ミトラ祈

(1) David Halperin, *The Face of the Chariot*, Tübingen : J.C.B.Mohr, 1988, pp.288f.

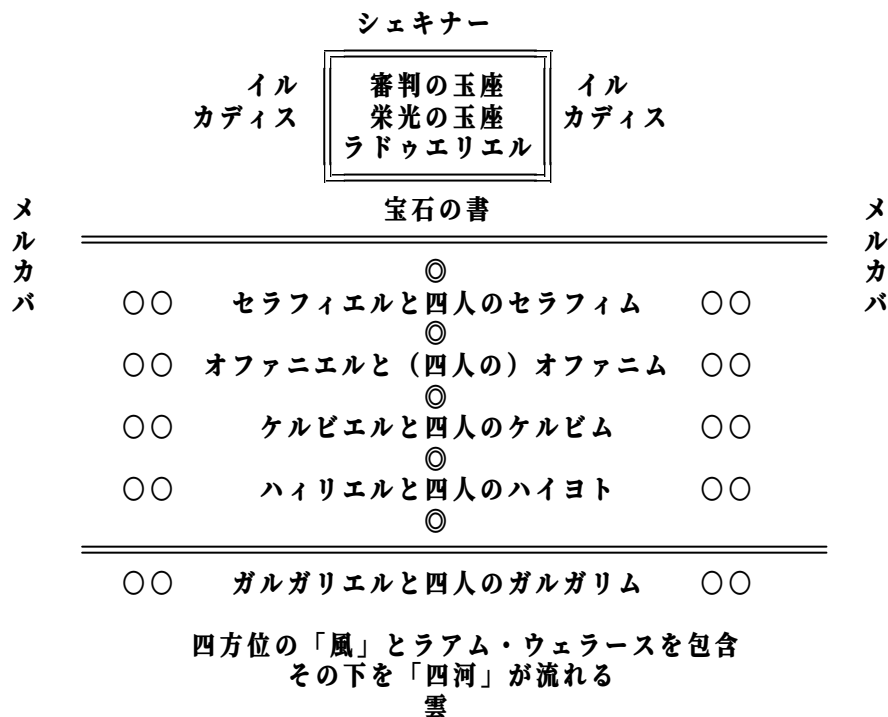
(2) ゲルショム・ショーレム『ユダヤ神秘主義』(法政大学出版局、1985年)64頁。

禱書」(PGM IV 475-829)である。カウフマンは、その差異は至高天において拝謁するのがユダヤ教の神であるか、ミトラ(Meta-tron-Mithra)であるかの違いであると言及している。⁽³⁾

そして、実践伝承が絶えたテウルギアとは異なり、メルカバ神秘主義の初期サークルそのものは消滅したが、メルカバ幻視はハシドが継承し、カヴァノースの技法として途切れることなく現代まで生きた技法が伝承されている。

メルカバ幻視の体験が「肉体をもって行われる」のか、「想像の上で行われるのか」は、中世まで議論の種であった。合理的な説明を採用する古文献は「預言者が肉の目(oculis carnis)で見たものを、心目の目(cordis oculis)で観想すること」⁽⁴⁾と解説する。しかし、古代のメルカバ幻視者は、文字通り生命がけでヘハロートに挑んだ。かれら神秘家は、生々しい現実体験として、天使に面し、印章の力を借りて死の罟を回避して、メルカバに乗ったのである。⁽⁵⁾

また、メルカバは機械ではなく、複合した天使の集合体である。オーデベルグは『第3エノク書』の解説のなかに、次のようにメルカバを図解した。⁽⁶⁾



天使団：サリシム、パラシム、ギボリム、セバイム、ゲドゥディム、メモニム、サリム、ハイリム、メサレイム、マラキム、デガリムの合唱団

「1基のメルカバを構成する天使団とは、シェキナーの漂うなか最上層にある2人のイリム、2人のカドシム、その下にある書記ラドゥエリエル、メルカバ本体を護持する天使長セラフィエルと4人のセラフィム、天使長オフアニエルと4人のオフアニム、天使長ケルビエルと4人のケルビム、天使長ハイリエルと4人のハイヨト、そして基部の車輪を構成する天使長ガルガリエルと8人のガルガリム、メルカバの下には聖四河があり、天使合唱団のサリシム、パラシム、ギボリム、セバイム、ゲドゥディム、メモニム、サリム、ハイリム、メサレイム、マラキム、デガリム等がいる。」

(3) Kaufmann Kohler, Jewish Encyclopedia.com-MERKABAH, <http://www.jewishencyclopedia.com/>.

(4) David Halperin, *Merkabah in Rabbinic Literature*, New Heaven: American Oriental Society, 1980, pp.174f, n.136, cit.in E.R. Wolfson.

(5) Elliot R. Wolfson, *Through a Speculum That Shines: vision and Imagination in Medieval Jewish Mysticism*, Princeton: Princeton University Press, 1994, pp.121ff.

(6) Hugo Odeberg, *3 Enoch The Hebrew Book of Enoch*, Cambridge: Cambridge University Press, 1928, pp.147ff.

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (PC)、すなわち「先導者」の1名である。

PCは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い。白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশョナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオーン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間 (Robing Room) において、光の法衣を纏う。



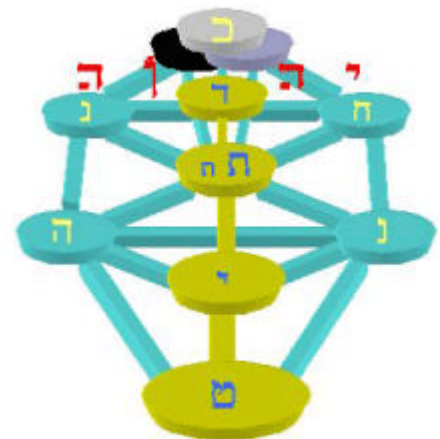
(2) サル・トーラーの召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

本儀式においては、マルクト神殿から出発し、イエソド神殿を通過し、ティファレト神殿に至る。ティファレトにおいて、印章を利用し、至高の3幅対（ケテル〜コクマー〜ビナー）に至る中間点であるダアスの広間において、メルカバの降臨を見る。

3幅対が集約しているため、第11、第12及び第14の小径は隠れ、ケセド〜ゲブラー線より上位の小径は中央の柱に収束していく。その中にダアスが仮想セフィラとして出現する。



4 魔術の教理及び技法的側面

(1) 七つの封印 (the Seven Seals)

メルカバ神秘主義における自己の封印 (□□□□□□□) とは、神聖名を用いて防護や、パスワードの役割を期待するものである。⁽⁷⁾メルカバ神秘主義の実践者は、封印する箇所に神聖名を記した紙などを当てることもあった。

ここでは『マセー・メルカバ』の示唆する方法で、身体の個々の部分と全体を下方から順番に封印する。⁽⁸⁾この記述は、シェイファーの分類では、§566のマイクロフォルムに該当する。また、§562にも封印のやり方が解説されている。

ユダヤ教以外の神秘主義では、七天球に照応させる場合もあるが、七箇所の封印には、七惑星や、セフィロトとの特別の相関はない。

また、PCが封印を実践する際には、黄金の夜明け団の「神聖名発音振動様式」を準用する。⁽⁹⁾すなわち、ケテルから引き下ろした白輝光を封印する肉体の場所（第6の封印では太陽神経叢）において、その箇所に意識を集中させ、神聖名を振動させる。

(7) Rebecca Macy Lesses, *Ritual Practices to Gain Power*, Harrisberg: Trintinty Press, 1998, p.82.

(8) Michael D.Swartz, *Mystical Player in Ancient Judaism*, Tübingen: J.C.B.Mohr, 1992, p.138f.

(9) リガルディー編『黄金の夜明け魔術全書』（国書刊行会、1993年）270-271頁。

(2) トーラーの宰相 (Sar ha-Thorah, Prince of Thorah)

トーラーの宰相は、大天使のうち「宰相」(prince)と呼称される高位の役職群の上席を占める者である。メタトロンがその筆頭に当たる。他の「宰相」職には、「夢幻の宰相」(Sar ha-Holam)などがある。トーラーの宰相は、翼を畳んだ長身の白く輝く法衣を纏う成人の天使として顕現する。大地と同じぐらい高齢のように見えるが、その顔は赤く輝いており、幼子のように若々しく見える。⁽¹⁰⁾
召喚されたトーラーの宰相は、PCの「本然之性」⁽¹¹⁾と融合する。



(3) 諸天界への上昇 (Rising in the planes)

黄金の夜明け団の内陣専用文書『飛翔する巻物』第11巻に基づき「諸天界への上昇」を実施する。⁽¹²⁾ 同書において、次のように定義された霊視の第3段階の適用である。

この技法は「生命の木」ダイアグラムに沿って行われる。

中央の柱を上昇し、マルクトからティファレトに至り、この霊的太陽に座を占めて、小径を確認する(位階が許せば、ダースからケテルへと上昇する段階もある。)ものだ。

本儀式においてパロケトを7層の帳と表現したのは、人間の靈魂が清浄界から星辰界を経由して地上に下降するとき、7惑星の影響力を衣としてまとい。上昇するときは、それを脱ぎ捨てるという伝承による。その好例が『ヘルメス文書』にある昇昇する靈魂が七つのハルモニア(諸天宮)に帰因する「作用力」を返し、「第八のもの」に至る描写に見える。⁽¹³⁾

メルカバ神秘主義における「靈魂の帰天」は、後期グノーシスの『イエウーの二つの書』の記述等と驚くべく類似性を有する。⁽¹⁴⁾ その他の中東における「上昇神話」を解析しても、同様の結果が現れるので、門番の恫喝を印章を利用して突破するというスタイルは当時の常識(流行)であったと推察される。

なお、ディオ・フォーチュンはこの技法の詳細な検討を実施している。⁽¹⁵⁾

(4) 宮殿の門番 (Guard Angels)

門番の姿は典型的な武装天使の姿である。個々の天使名によるテレスマ的解析は必要ない。

天使長カツビエルはメルカバに下降するに相応しくない者を殺戮するため剣を履き、弓を携えている。胴着は白無垢の単衣であり、鎧は身につけていない。腰衣は同じく白無垢のキルトのような素材である。ドゥミエルや、他の天使も同様に武装している。かれらの翼は、猛禽類が地上にあるときのように折り畳まれている。無帽の頭上には光輪が射す。

天使の臨在を感じるときは、作為するよりも、その役割を想起されたい。

ユダヤ教では審判の天使は、靈魂を切り刻み2度と再生しないようにギザギザの歯のついた剣を抜き控える。その刀身からは冷たい炎が吹き出し、刃の上を露が滴る。



(10) メタトロン伝承には、長老エノクが昇天し変容したメタトロンは、天文学的な寿命をもつ他の天使たちより若いので「若者」(Yenuka)と呼ばれる件がある。

(11) この「本然之性」とは、朱子学の「天理即本然之性」より派生した言葉であり、天理に等しい性善の本性を意味する。江戸時代には石田安吾などがこの主張を押し勧めた(山本七平『日本人とは何か』下巻、PHP研究所、1989年、278-279頁。)

また、西洋のルネサンス期には『ピカトリクス』第3巻4章のアリストテレスとの対話「『かく言う汝は何者であるか?』かれ答えて曰く『われは本然の性。われに会わんと欲せば、わが名を呼べ。』」を受け、人間の自由なる上位靈魂「本然の性」(natura completa)として重要視された(PICATRIX The Latin version of the Ghayat Al-Hakim, London: The Warburg Institute, 1986, pp.109f.).

(12) フランシス・キング編『飛翔する巻物: 高等魔術秘伝』(国書刊行会、1994年)88頁。

Edited by F. King, Astral Projection, Ritual Magic, and Alchemy,

Wellingborough: The Aquarian Press, revised 1987, p.76.

(13) 『ヘルメス文書』(朝日出版社、1980年)74-76頁。

(14) 「汝らが身体の外に出て最初のアイオーンに到達したとき、そのアルコンが現れたら、この印章により自らを封印し、...『プロテトペルソムポン・チュースよ、退け。汝ら、第1のアイオーンのアルコンたちよ。われはエアザ・ゼオーザス・ゾーゼオスと呼ばれり。』なる弁明を唱えよ。」(『イエウーの第2の書』52章)

(15) Charles Fielding, C. Collins, The Story Of Dion Fortune, Thoth Publications, 1998, pp.165-174.

(5) 印章 (Great Seals, Hotam Qadsh)

ヘハロート文書では、神秘家は各宮殿の門番の天使長に、安全な通過を保障する神聖名の刻印された「印章」(𐤇𐤍𐤕𐤍)または、「指輪」(𐤇𐤍𐤕𐤍)を示す。⁽¹⁶⁾ここでは「印章」と和訳したが、「七つの封印」における「封印」(hotam)と同じ文字である。

古典古代においては、金属の護符、召喚壺などによく「印章」(σφραγίς)が刻印された。一般的には、金属、玉石、羊皮紙に刻印(彩色)されるが、この場合の素材は羊皮紙のような布きれ状の紙片に色つきインクで描かれたものである。色指定は、左右に対応している。

神聖名は『大ヘハロート』に記述された名前を指定した。第6宮殿の門の監視者に対して、右翼の天使長カツピエルにザルリヤルの印章2個を示し、左翼の天使長ドゥミエルにはポロニヤーの印章を示す等である。同書には印章の形状に関する記録はないので、デザインは「カイロ・ゲニザ草稿、JSTL ENA 1177.16」を参照した。⁽¹⁷⁾

グノーシス主義者の幾何学的印象の図例は、クルト・ルドルフを参照されたい。⁽¹⁸⁾



(6) メルカバ幻視 (Zefiyat ha-Merkabah)

ダアスの広間において幻視するメルカバは、『第3エノク書』にあるように多数の天使存在が複合して支える霊的乗物である。しかし、神秘家ではない余人には、個々の天使を識別することは不可能に近く、メルカバ全体が、回転する輝き、或いは煌めく翼の海のように見えるだろう。

儀式の最終段階において見える正四面体を結合させたメルカバ祭壇は、半透明な幾何学図形である。それは上下の頂点を結ぶ垂直軸を中心に、右回り、または、左回りに回転する。右回りに回転するときは、「内方」、つまり、第7宮殿の栄光の玉座に向け「下降」し、左回りに回転するときは、「外方」、つまり、宮殿からの帰還の方向に「上昇」する。

5 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。(家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等)、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

シナリオ文書を一部、手軽に確認できる場所に置く。

自分以外のパートの台詞とト書をテープに吹き込んでおく。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い(儀式的沐浴)、法衣(または身体を締め付けない服装)に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(16) 一例を示すと『小ヘハロート』では「指輪」が用いられ、『大ヘハロート』では「紋章」が用いられる。

(17) Peter Schafer und Shaul Shaked, *Magische Texte aus der Kairoer Geniza Band II*, Tübingen: J.C.B. Mohr, 1997, p.399.

(18) クルト・ルドルフ『グノーシス』(岩波書店、2001年)188頁。

第2章 儀式

1 神殿への入場

参加者は、座ったまま目を閉じ、自分のアストラル的姿形を形成する。前方に光体を形成する。自らが輝く光の法衣を纏う様子を強く視覚化する。

光の法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

あなたは、自分の光体の身体を立ち上がらせ、肉体を脱ぎ捨てたまま、前に進み光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るP Cが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」P Cは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胸の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

P Cは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

P Cは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式を行う。

東に面し、開門の宣言を行う。

「ヘカス ヘカス エステ ベベロイ」

さらに、物見の塔の儀式を応用し、霊気を安定させる。

祭壇の南側に行き、南壁に背を向け、祭壇からランプを取り上げる。正面（北）、右（東）、左（西）と三方向にランプを振り言う。

「総ての幻影が去りし後に、宇宙の隠されし深みを飛翔する聖なる形なき炎を見るであろう。

汝、火の声を聞け」

次に振り返り、祭壇を背中にし、南に面する。白と黒の柱の彼方に荒涼とした砂漠が広がる。直立した奇岩なのか、風化した巨石建造物なのか分からない、小山のような石の柱の間に、蜃気楼のようなオレンジ色のサラマンダーが闊歩している。

押し寄せる熱波に直面し、

自分の目の前に霊の能動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「B I T O M」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A H I H」

L V Xサインを行う。

次に火の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「O I P T E A A P E D O C E」

その中央に獅子宮のサインを書き、神名を振動させる。

「A L H I M」

P Cは、フィロソファスのサインを行う。

「大いなる南の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、南の物見の塔の天使よ」

祭壇の西側へ行き、西壁を背に盃を取り上げる。三方向に盃の水を注ぎ言う。

「最初に、火の技を治めし祭司は、荒れ狂う海に清めの水を撒かねばならぬ」

次に振り返り、祭壇を背中にし、西に面する。白と黒の柱の彼方に、次々と波頭の押し寄せる

大海原が広がっている。白い波頭は、蹄の代わりに水掻きの生えた水棲の馬である。その鱗の生えた蒼い肌の上に、海の乙女たちが豊かな胸乳をさらして、手綱を御している。

自分の目の前に霊の受動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「H C O M A」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A G L A」

L V Xサインを行う。

次に水の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「E M P E H A R S E L G A I O L」

その中央に鷲のサインを書き、神名を振動させる。

「A L」

P Cは、プラクティカスのサインを行う。

「大いなる西の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、西の物見の塔の天使よ」

祭壇の東側に行き、東壁に背を向け、香炉を取り上げる。三方向に香炉を振り言う。

「かくのごとき炎、迸る《風》のなかにあらん。また、《声の似姿》を放つ形なき《火》、さらに声高に叫ぶ《渦巻く炎の光》のなかにもあり」

次に振り返り、祭壇を背中にし、東に面する。白と黒の柱の彼方に、丈の高いヒースの草原の緩やかな起伏が見える。その背後には黄塵と、流れ行く逞しい雲の連なりが広がり、黄色っぽい空の雲間には、半透明な存在の乱舞する様子が伺える。

自分の目の前に霊の能動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「E X A R P」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A H I H」

L V Xサインを行う。

次に風の召喚の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「O R O I B A H A O Z P I」

その中央に宝瓶宮のサインを書き、神名を振動させる。

「I H V H」

P Cは、セオリカスのサインを行う。

「大いなる東の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、東の物見の塔の天使よ」

祭壇の北に行き、北壁に背を向け皿から塩をつまみ上げ、三方向に撒いて言う。

「暗き輝きの地界に屈み込むなかれ。そこには、背信の深みと、闇を纏う冥府王が不可解なるイメージに悦び、風猛き絶壁、黒く逆巻く深淵は、つねに光放たぬ形なき虚しき場に連れ去るものなり」

次に振り返り、祭壇を背中にし、北に面する。白と黒の柱の彼方に、峨々たる小暗い山脈が聳えている。緑の裾野には、無数の生命が満ちあふれているようだが、むしろ、黒い岩肌を晒した山肌に、煌めく金属的な光芒が散らついている。剥き出しの鉱脈の上をノームの工具が叩いているのだろう。

自分の目の前に霊の受動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「N A N T A」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A G L A」

L V Xサインを行う。

次に地の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「E M O R D I A L H E C T E G A」

その中央に金牛宮のサインを描き、神名を振動させる。

「A D N I」

P Cは、ジュレイターのサインを行う。

「大いなる北の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、北の物見の塔の天使よ」

祭壇の西に行き東面する。深紅の薔薇で霊の能動と受動の召喚の五芒星を描く。

「E X A R P	A H I H
H C O M A	A G L A
N A N T A	A G L A
B I T O M	A H I H」

続けて言う。

「神秘なる統一のタブレットの名前と文字において、われ汝を召喚す。
汝、生命の霊の神聖なる諸力よ」

花を置き、ヴェールを開くポータルサインを行う。

「われ汝を召喚す。汝、不可視の座に住まう天球の天使たちよ。
汝は宇宙の門の守護者にして、またこの神秘なる球の守護者なり。
邪悪なるもの、均衡を失いしものを遠ざけよ。
永遠の神々の神秘の住居を汚さざるため、われに力と霊氣を与えよ。
われがその中に入り、神聖なる光の秘密を分かたため、わが球を清浄かつ神聖たらしめよ」

PCは、魔法鏡の内部の安定し、活性化した霊氣を徐々に変容させていく。
天使たちの降臨により、激発する直前まで高められた魔術師の意志が、神殿の外壁、すなわち拡張されたPCの魔法鏡の表面に、鮮やかな変幻する光を生む。それは虹のようにすべてのスペクトラムを輝かせる。それと同時に白色を基調とした魔法鏡の内部の霊氣が、徐々に赤化し、黄土色のぼやけた色調から、黄金の光を放つようになる。魔法鏡の表面の極彩色の光芒も、色彩の輪郭が溶け合うと黄金色にかわり、魔術師の霊氣に統合された。広間は、黄金の光に満たされた。

4 入場及び宣言

これらが完全に成し遂げられたら、神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。
兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち。姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。
PC：「I ∴ O ∴ S ∴ の兄弟姉妹たちよ。春分の儀式を開始せん。」

5 トーラーの宰相の召喚

PC：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PC：「聖なるかな汝、I I（ヨー）。
智慧と洞察をもて、天と地を造りし者よ。汝が名は永遠なり。
Ch I AVP S I S I P I I AV LV SM B I K I I Th N I I
(カイ オープ シシ パーウ ラブ サム ビー キー タナイー)
そは汝が下僕の名前なり。」

PCは指を剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。参加者もPCの動作に倣う。
PC：「AVRIS S S Th I I（アブリース ススティイー）
わが脚を封じる。」

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。
PC：「ABG BGG（アバグ バググ）
わが心臓を封じる。」

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。
PC：「ARIM Th I PA（アリム サイパ）
わが右腕を封じる。」

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。
PC：「AVRIS Th S I I AH（アブリース サシ イアー）
わが左腕を封じる。」

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：「AB I Th Th L BG AR I I V D I V A L
(アビース サル バグ アル ヨー ディヴェル)
わが首を封じる。」

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：「A V P A K Q I T R S S A C h D I D I D I H
(アウ パク キテル スス エイカド イダイダ ヤー)
わが生命とすべての部分を守護するために。」

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：「A V P P Th I H V C h I V I V Z H V I H V Th I Th S
(オーブ プター ヤーホー カィウー ヨォー ザハウ ヤーホー サイサス)
わが天蓋を封じる。」

全員：「わが天蓋を封じる。」

PC：「R I R G V G (リール ゴーグ)
大いなるもの
H P I P H P (ハーブ ヤープ ハープ)
清浄なるもの
H H I I V H H I H H H H (ハー イーウ ハーイ ハー ハー)
久遠の詠唱よ。
智慧の主を讃えよ。すべての権能は汝にあり。
聖なるかな汝、I I (ヨー)。
無敵にして、至高、至上、大いなる支配者よ。」

七つの封印を完成したPCは、祭壇の西側から祭壇に向かい両手を広げて言う。

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。
汝は、生成（ゲネシス）にして、始原（アルケ）なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝の真実の子、S h Q D H V Z I H (サクドゥザー)の祈りを聞き賜え。
汝が力を貸し賜え。
われは汝が光のなかで再生せんとす。
われは汝が光のなかで完成せんとす。
汝が天使A R P D S (アルパデス)は語れり。
三つの御名を唱えることなく、メルカバに至るなかれ。
そは、次なる名なり。
S D I R Th I N R I A I (サディル ティンリ アイ)
I B I A B I H V S V V T z (イバイアー ビホー スүүツ)
D V P R V P D C h M (ドゥパ ルアパ ダカム)」

PC：「汝は、われらの父にして、われらの母なり。
われらの栄光にして、われらの輝ける自己が顕現する。
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。
汝は、生成（ゲネシス）にして、始原（アルケ）なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝が律法の宰相S h R H Th V R H (サル ハ・トーラ)は語れり。
三つの御名を唱えることなく、メルカバに至るなかれ。
そは、次なる名なり。
Z T z T I T z Z R Z I A L (ザッツ ティズ ザルジエル)
Th I Th Th V P I L T I R B Th (ティス トゥピルティ ラブス)
I P A A R C h R Z I O A O I Z V Z
(ヤパー アルカル ジアー アイザズ)」

PC：「汝は、彗星より火を借り、光の戦を率いる者なり。
われらが足下に大地が見え、また天も見えるなり。」

そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。
汝は、生成（ゲネシス）にして、始原（アルケ）なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝が顕現の天使MLAK HPNIM（マラキ ハ・パニム）は語れり。
三つの言葉を唱えることなく、メルカバに至るなかれ。
そは、次なる名なり。
GLI AII （グライ アイイー）
ARDR IHAL （アルダル ヤホエル）
ZK BBIBA （ザク ババイバ）」

PC：「汝は、夜明けの薄明にして、黄昏の薄明なり。
われらが影のはずれに來たとき、太陽はわれらの頭上にあり。
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。
汝は、生成（ゲネシス）にして、始原（アルケ）なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝がメルカバの車輪GLGLI HMRKBH（ギルグリ ハ・メルカバー）は、
玉座の前で歌えり。
三つの言葉を唱えることなく、メルカバに至るなかれ。
そは、次なる名なり。
HTz PZIPA （ハツ パジパ）
HP IAV （ハパ イアウ）
GHVA ShBIBA （ガホア セバイバ）」

PC：「汝は、月の秘薬たる光にして、太陽の秘薬たる光の光なり。
われらが玄妙なる物質の心的王国を越えるとき約束は成就せん。
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「汝は、われらが主にして王、至高至聖なる霊なり。
汝、燦然たる神の光を身に帯びたる者よ。
汝は聖霊の天の父にして、宇宙の母なり、しかして、心の天の子なり。
われらは汝を召喚し、汝に満たされんとす。
汝、隠れたる者、HDIRIRVM（ハディリルム）！
この血に降下し賜え。
汝、本性の知らざれし者、AL RVZII IVI（エル ルズィー イヨー）！
この肉に降下し賜え。
汝、かくのごとき者、HGGBVB IH IHV（ハググブブ ヤー ヤオー）！
この骨に降下し賜え。
IHVS hH（ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー）
われらは戴冠せる王、天と地の支配者とならん。
IHSh VH（ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー）
われらは万軍の將、天と地の支配者とならん。」

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、トーラーの宰相のテレズマ的姿が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。
五界を結ぶは、われなり。
諸天界へ上昇せるは、われなり。」

6 マルクト神殿から諸天界への上昇

PCは東を向き、柱を越えて、至聖所に到る階段を上る。仕切り壁の上にある三つの扉（小径）のうち、中央の扉に向かう。PCは杖で、月の召喚のユニカーサル・ヘキサグラムを描く。

銀色の六芒星が扉の上に輝くと、扉はタロットの「世界」の絵札に変わった。

PCはためらいもなく扉を抜け消える。

団員たちは、次々と階段を上り第32の小径に消えていく。あなたが前に進むと、四隅の四大のケルビムの像が首を曲げて、通過しようとする貴方を見るのが感じとれる。

この扉は、立体的奥行きのある3次元の像であり、女神が身体に巻き付けたカフの字の形に折れた薄衣は、彼女の背後から吹く微風にはためき揺れている。女神は不思議な微笑みを浮かべている。あなたは半透明な女性の立体像の中を通り抜け、小径に入る。

小径に入った瞬間に、全身を浮遊感が覆い。凄まじい勢いで、星降る宇宙空間を上昇する自分を感じる。紫色に近い暗黒の星空のなかに、手に触れるほど間近に巨大な満月がある。

巨大な半球から、その全貌が見えないほど視野一杯に広がり、クレターの形が見分けられるほど月面に肉薄したかと思うと、あなたは急上昇し、月の表面をかすめるように焼けただれた岩肌の上空を飛翔する。前方の月平線が急速に丸くなり、月の反対側の宇宙が見え始めると、暗黒の空間に虹の七色を宿したオーロラが、その揺れる帳を全周に広げて出現した。

月を後にしたあなたは、オーロラの形をしたパロケスに突入した。強い香が匂う。貴方は全身を虹の色彩で包まれ、揺らめく帳を1枚1枚、突き抜けていく。その度に光体に軽い衝撃が走る。その振動を7回数えたときパロケスを完全に通過した。薄い帳を通過する度に、あなたは自分の光体から地上的な重いものが薄皮をむくように剥離していくのを感じる。

次に出現したのは、黄金の球体、太陽である。

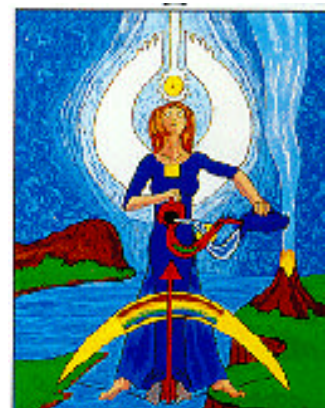
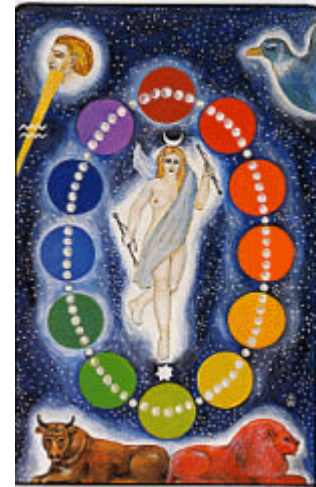
プロミネンスが紅蓮の炎をあげる太陽面が手にとるように見える。

PCは星空の一角に太陽の召喚のユニカーサル・ヘキサグラムを描く。銀色の六芒星が闇のなかに輝くと、空間を切り裂くようにタロットの「節制」の絵札に変わった。

PCは扉を抜け、第25の小径に消えていく。

あなたは、宇宙空間のただなかで方向を定め、その透明な扉に潜り込む。前に進むと、右側から噴火する火山の熱と大地の乾いた固さを、左側から水の冷たさと湿り気を感じる。

あなたは虹の矢の径をとおり、半透明な女性の立体像の中を通り抜け、次の小径に入る。



7 ティファレト神殿と宮殿の門番

ティファレト神殿の内部は正八角形の床と化粧板を貼った丸天井、黄金のパネルで埋められた側面に開く八つの扉から成り立っていた。

あなたはその西側の扉から神殿に入った。神殿の少し高くなった中央部には四つの黄金の御座が東西南北を向いて置いてあり、その内側に天井まで届く大理石の柱と磨いた祭壇が立っている。神殿全体は天井の6本の灯火が発する淡い黄金色の照明で照らされていた。

同じく大理石の床を踏み締めて、あなたは神殿内のしかるべき位置につく。

PCは祭壇の西に行き、白大理石の祭壇に向かい、祭壇の上の布を被った盃を避けて、笏で6回ノックする。

11 11 11

PC：「我らは、《魂の暗き夜》を越え、ここ第6の小径、ティファレトに到れり。

天球における座はシエメッシュ、太陽の球なり。

第6の小径は《媒介的影響力の知性》と呼ばれる。その中で流出の流れは倍加し、かの影響力は総ての至福の貯水池に流れ込み、あらゆる流れは自らひとつになる。」

祭壇の上の6本の蠟燭が灯る。同時に乳香の香りが漂い始める。

PCが剣を掲げると天井の燭台が黄金の眩い光線を放ち、参会者の法衣を豪華な輝きで浮き上がらせた。

PC：「第6の小径の体験は《十字架の密儀》なり。
死して復活せる神々の伝説と、その表象せる自然の周期に思いを馳せよ」

PCが杖を掲げると、神殿の内部に微細な黄金の粒子が充満し、濃密な黄金の霧となって参会者の胸までを覆った。その金属の霧は聖名を振動させるPCの声に共鳴して、神殿内部を反響する深い波動で満たす。

PC：「ヤーヴェ・エロア・ヴァ・ダート。顕現せる神よ。神の知識に礼拝する。アーメン」
全員：「アーメン」

PCは、祭壇の上から3枚の聖なる印章を取り上げ、祭壇を回って東の壁に行く。

PCは東の扉の前に立ち、杖で、土星の召喚のユニカーサル・ヘキサグラムを描く。銀色の六芒星が扉の上に輝くと、扉の前に8人の天使が出現する。右側に4人、左側に4人である。

PCは右翼の最も前方にいる天使に向き直る。
かれは剣を抜き払い右手に構えている。
その剣からは稲妻が発し、われわれの目を奪い眩ませる。
また、その剣は「破壊を！ 寂滅を！」をという絶えざる警告を雷鳴のごとく轟かしていた。



PC：「汝、第6宮殿の門の宰相カツピエルよ。
メルカバに下降する者を滅ぼす者よ。
メルカバに下降する者を滅ぼさざる者よ。
わが手にある聖なる印章を見よ。」



PCはザフリエル (זְהַרְיָאֵל) の印章を2個示す。
印章を確認した天使長カツピエルは、稲妻と雷鳴を放つ剣を鞘に納める。
PCは左翼の最も前方にいる天使に向き直る。

PC：「汝、第6宮殿の門の宰相ドゥミエルよ。
アラヴォートに響きわたる沈黙の声を宰領する者よ。
沈黙の天使、ドゥム・エルよ。
わが手にある聖なる印章を見よ。」



PCはボロニヤー (בְּרוּנִיָּה) の印章を示す。
それを確認したドゥミエルの合図を受け、カツピエルが弓を引き絞り、われわれの頭上に矢を放った。大風が巻き起こり、軍団の角笛の音がわき上がる。前方の扉の奥からメルカバの放つ輝きが顕れた。

PCは後続の団員に三つの印章を渡す。団員は、ひとりひとりが天使長と対峙し、正確な印章を明示しなくてはならない。

あなたの番が来た。前を進む団員から印章を渡される。
あなたは右翼最前列の天使長カツピエルに向き直る。
かれは再度、剣を抜き払い右手に構えている。
その剣から発する稲妻が、あなたの胴体の直前で炸裂し、静電気で肌がちりちりとする。空気の焼けるオゾンの臭いがする。あなたの目は連続する電光で半ば眩まされた状態だ。威嚇する剣の「破壊を！ 寂滅を！」をという警告は、破滅の天使に対峙する恐怖を再認識させる。

「汝、第6宮殿の門の宰相カツピエルよ。
メルカバに下降する者を滅ぼす者よ。
メルカバに下降する者を滅ぼさざる者よ。
わが手にある聖なる印章を見よ。」

あなたはザフリエル (זְהַרְיָאֵל) の第一の印章を示す。そして、すばやく第2の印章を示す。天使長カツピエルは、剣を納める。

あなたは次に左翼最前列の天使長ドゥミエルに向き直る。
「汝、第6宮殿の門の宰相ドゥミエルよ。」

アラヴォートに響きわたる沈黙の声を宰領する者よ。
沈黙の天使、ドゥム・エルよ。
わが手にある聖なる印章を見よ。」

あなたはボロニヤー（בִּרְזַרְזַר）の印章を示す。
ドゥミエルの合図を受け、カツピエルが弓を引き絞り、あなたの頭上に矢を放った。大風が巻き起こり、軍団の角笛の音がわき上がる。前方の扉の奥からメルカバの放つ輝きが顕れた。

ドゥミエルは右手をあなたの方に振ると、目に見えない贈り物を、あなたの胸に授ける。それは、あなたに対するメルカバへの認証である。あなたは門をくぐる。

8 ダアスの広間への入場

門の彼方にはダアスの広間があった。ダアスの広間は、非在の広間である。それは「生命の木」の図像に引かれた仮想の小径、いわゆる「隠された小径」のひとつである。別の視点を用いると「知識の小径」は「善と悪の知識の木」が「生命の木」と交わる場所であり、一刹那の「御座の宝玉」の顕現である。

あなたの前に、見渡す限りの白銀の輝きが広がっている。真冬の太陽に照り映える湖の面のように、渦巻く光が湧きかえっている。

目映い光線に目をくらませながら、上空を見上げると鏡写しのように白銀の輝きが広がっている。上下の光の氾濫は、大いなる海のようにもあり、冷たく燃える炎の壁のようにもある。

どこからともなく天使の声が聞こえる。

「ラキアとラキアの間に水がある。
水と水の間に火がある。
火と火の間に水がある。
水と水の間に火と拝礼と水がある。」

しかし、これを見て「水だ、水だ。」と叫んではいけない。
広間の床と天井の大理石の輝きは、天界の第6宮殿の反映である。真っ直ぐに横切りなさい。
前方に青銅色の輝きがある。

9 メルカバの臨場

ダアス神殿の奥に光輝くものがあった。
その青銅のように輝くものは、不思議な姿をしていた。無数の翼と止
手と足が見えた。その集合体は、複雑な動きを見せ、一瞬たりとも静
していなかったが、全体を中心に光の強い部分があり、それは相対的
に停止していた。生き物の四肢が蠢くなかに、火の粉が舞い踊り、そ
の周囲を小さな稲妻が取り巻いていた。この幻惑されるような生き物
の連なりのなかに、4種類の顔が見える。つまり、獅子の顔、牡牛の
顔、鷲の顔、そして人間の顔である。

そして、生き物の下には四つの車輪があった。車輪は静止したり、回転したりを繰り返している。静止したときは、車輪が複数の同心円状の輪で構成され、それぞれの輪にはびっしりと目が満たされていた。

生き物の上には、蒼穹の連なりが見えた。その巨大な広がり、同様に巨大な翼によって支えられていた。

蒼穹のさらに上にサファイヤのように輝く何者かがあったが、眩しすぎて見えない。

これらの全体がひとつのメルカバである。
あなたが見ているのは、あなた自身のメルカバである。

天使長ドゥミエルが訓戒する。

「われに汝に宣言し、警告する。次の二つの資質をもつとなくば、メルカバに下降せんとするものは、メルカバに下降すること能わず。



その一は、書かれたトーラーと口伝のトーラーを慎重に学んだことである。
その二は、シナイ山でモーシェが持ち帰りし主の命令を厳密に守ることである。」

ドゥミエルは、次にあなたの名前と学習の進展度を赤いインクで巻物に記し、メルカバの生き物の上にある蒼穹の柱にかけた。

その瞬間にメルカバは姿を変えた。

車輪は急速に回転し、その姿が見えなくなる。生き物の四肢は翼の奥に引き込まれ、四種類の顔が溶け合い翼の奥に隠れる。生き物の姿で見えるのは、無数の回転する翼だけとなった。

あなたの名前と学習度が記された柱を含む蒼穹の天蓋は、三つに折りたたまれ、その中心に黄金の三角形が出現した。

三角形の奥に門が開き、第七宮殿への通路が出現する。神聖名ヤーが瞬時、浮かびあがる。

しかし、門が開いたのは一瞬であった。



メルカバの翼が折りたたまれ、中央の門が閉じる。メルカバは急速に変形し、あなたの前に上向きと下向きの正四面体が合体した立体六芒星が出現した。

あなたの個人的なメルカバは、万人の象徴たるメルカバに変容した。

それと同時に先行したPCと団員たちが、このメルカバの祭壇を囲んで出現する。春分の主祭が執行される。

10 春分の主祭

PC：「メルカバの祭壇に宇宙の軸を召喚せん。

I a H a V a H a (ヤー・ハァー・ヴァー・ハァー)

H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)

V o H o I o H o (ヴォー・ホォー・イョー・ホォー)

H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

メルカバ祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。春分は到来せり。」

PCは、祭壇の東に廻り、西に向かってホルスのサインを行う。

PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の西に廻り、東に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。

無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、

そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかにメルカバ祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。

わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。」



汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」
メルカバ祭壇は、全員の詠唱の声とともに右回りに回転を始めた。その回転は急速に早くなり、「アーメン」を唱えると、内側に折り畳まれるように内転して消滅した。メルカバはダアスの広間から、第7宮殿に向かい出発した。

11 マルクト神殿への帰還

メルカバを見送ったわれわれは、ダアスの広間からマルクト神殿へ帰還する。

全員、東を向く。
全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

PC：「聖なる場に神秘なる逆周行を起こさん。」
全員がPCに続き三度周行し、左回りの渦が形成された。

PCが発言する。
PC：「神秘なる逆周行は完成した。マルクト神殿に帰還せん。」

PCに続き全員が神殿の西側に移動する。磨き抜かれて白く輝く大理石の床と天井が、禁じられた「水」の面を連想させる広大な広間を横切ると、西側の壁に白と黒のヘルメスの杖が柱のように立ち聳え、その間に門を造っていた。

非在の広間から、一挙にティファレト神殿に戻る。

PCは、神殿の西に行き太陽の追儼のユニカーサル・ヘクサグラムを描き、裏側から見た「節制」の扉を出現させる。PCは第25の小径に消えていく。

あなたは、先行する団員に続き、その透明な扉に潜り込み、左側から噴火する火山の熱と大地の乾いた固さを、右側から水の冷たさと湿り気を感じる。

あなたは虹の矢の径を駆け下り、半透明な女性の立体像の中を通り抜け、次の小径に入る。
あなたは無重力感に包まれた。

紅蓮の炎をあげる太陽の表面をかすめるようにして、オーロラの形をしたパロケスに突入した。上昇時と同じく強い香が匂う。貴方の全身は、虹の色彩で包まれ、揺らめく帳を1枚1枚、突き抜けていく。その度に光体に軽い衝撃が走り、何かが纏わりつく。その振動を7回数えたとき無事に帳を通過し、手に触れるほど間近に巨大な満月を見る。

あなたは、月の反対側から表面をかすめるように下降し、巨大な円盤状の地球を見下ろす。

PCが地球の円盤の上に、月の追儼のユニカーサル・ヘキサグラムを描く。銀色の六芒星が輝くと、地球光の中心に裏返しの「世界」の絵札が現れる。PCは扉を抜け、地球に降下する。
団員たちに続き、あなたも半透明な女性の立体像の中を通り抜け、マルクト神殿に帰還した。

PCは全員の帰還を確認するとマルクト神殿の東壁の第32の小径を不活性化する。

12 天使の出立

PCは祭壇の西に行き、東を向く。
PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
I H S h V H (ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー)
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。
I H V S h H (ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー)
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

13 地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

PC：「IHShVHとIHVShHの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙が続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を採り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I : O : S :
RITUALE DE
AEQUINOCTIO VERO IIIA

IMPRIMI POTEST: I : O : S :
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
MARTIUS MCMXCIII

春分儀式 VE03A

Copyrights © All rights reserved I : O : S : 2003

2003年3月6日 I : O : S : 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I : O : S : の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I : O : S : の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。